開する型（平面整備型）、の２つが検討されています。「こういうものが作れればいいのに」という思いは皆さんお持ちだと思いますが、現在の大阪では、なかなか実現の見通しが立ちにくいモデルです。この事業が早く整備され、実際に事業展開できるようになればと思いました。

今回の全国大会での講演は、私自身が聞きたいと思っていたお話を聞くことができ、とても勉強になり有意義な時間が過ごせたと思います。ただ、高齢の方に限らず、障がい者に対し多様な支援が必要とされている中で障がい者支援において柔軟に対応できている地域とそうでない地域があり、また格差があることが残念に思えました。来年４月に予定されている障がい者総合支援法の施行後３年後の見直しにより、障がい者福祉サービスが本当により良いものに改善されればいいと感じました。

きずな会の皆さんと全国大会の本人大会に参加しました

メープル　主任　石橋　孝治

「きずな会」は障がいのある本人たち自身が運営する本人たちの会です。私はそのきずな会の本人たちより、苦手な事について手伝って欲しいと依頼をいただき、今年度よりお手伝いをしており、今大会にもご一緒させていただきました。

昨年度の島根大会を経験した役員の方は、その経験の中で、こちらから話しを持っていかずとも、自分たちから今年も全国大会に行きたいので、手伝って欲しいと依頼がありました。また、今回は前回行けなかったメンバーも含めて全員で行きたいという意向がありました。少しずつではありますが仲間を意識し、自分たちの活動を自分たちで決めていく本人活動へと進んでいるように感じました。

さて、今回の全国大会の本人大会に、きずな会からはメンバー１９名のうち１４名が参加されました。皆さん仕事等で忙しいなか、お休みを調整して参加されました。

大会の方は、大きく３つに分かれており、①講演会や話しあいの分科会、②舞台の観覧や参加・ゲーム等の分科会、③名古屋名所を巡るバスツアーの分科会がありました。

佐々木会長と中元副会長は自分たちの役割に責任を感じているようで「僕らは話し合いの会や」ということで、本人大会第３分科会『みんなで話そう』≪権利をまもることと本人活動≫に参加されました。同行した職員はその分科会には同席せず、自分たちだけで参加をしています。分科会の内容については、参加されたお二人からの報告がありましたので、そちらの方をご覧になってください。

会長と副会長以外のメンバーは、本人大会第４分科会①の『みんなで楽しもう～！交流フェスティバル』に１名と職員が参加しました。一緒に参加できていないので、詳細については分かりませんが、舞台に出て一緒に踊ったり、クラフトのような物を作ったりしたようで、「楽しかった」と満面の笑みで報告をしてくれました。他の１１名のメンバーは私も同行して本人大会第４分科会②の『思いっきり名古屋（バス観光ツアー）』に参加しました。我々のバスには、名古屋市育成会の職員、学生ボランティア、大阪ともだちの会の方、広島市育成会の方が一緒でした。

バスツアーの方は、最初に向かった所は、大阪の通天閣？東京のスカイツリー？？に肩をならべる名古屋テレビ塔とオアシス２１でした。滞在時間は１５分。最終的には上に登って写真を撮るだけに終わってしまいました。次に向かったのは名古屋城です。そこでの滞在時間は３０分。少し慌しい観光でしたが、メンバーの皆さんはご持参のカメラで、金のシャチホコやお城をバックに写真を撮っておられ、同じバスに乗っていた大阪ともだちの会の皆さんとともに写真を撮るなどといった交流もできました。次に向かった名古屋港水族館では２時間程ありました。まずはイルカのショー。良い席が取りたいということで早目に席取りに向かいました。日差しも強く、夏のような暑さだったので、かき氷を食べながら待ちました。自分でシロップをかけ放題できるということで、全種類のシロップをかけて、微妙な色のカキ氷を作って笑いを誘う方も・・・。席取りの結果はと言うと、完全に水の滴るイイ男とイイ女になることができる最前列に４名、３列目に１名が、微妙に濡れる４列目に４名となかなかの布陣となりました。水に濡れるということで全員、雨ガッパを装備しショーに赴きました。皆さんキャーキャー言いながらイルカに水をかけてもらい、先ほどの全種類シロップがけのカキ氷にも塩水のシロップもかかってしまう始末でした。その後、シャチやらペンギンやら見たいものがたくさんありましたが、我がメンバー達からは「海遊館より広いな～」と何故か海遊館基準で水族館の大きさを測るという、生粋の大阪人あるあるのセリフが出たほどに館内は広く、軽く見て回るだけで時間ギリギリになってしまいました。とは言え“時間が無くても、お土産は欠かせない♪”と